『動植物の冬越し』　　２０２０．１．１２

NPO法人四季の森里山研究会　小野、宮下、時田、下田

「今日は何の日」

・二十四節気　　小寒（1/6～1/１９寒気がようやく強くなる）

・１月１２日　スキーの日

１．動物の冬越し

＜昆虫＞

①卵で越冬　　オオカマキリ、ショウリョウバッタ、ジョロウグモ、エンマコウロギ

②幼虫で越冬　　ヨコズナサシガメ、セミ、トンボの８５％、アカボシゴマダラ

③蛹で越冬　　アゲハ蝶のほとんど、モンシロチョウ、スジグロシロチョウ

④成虫で冬越し　ナミテントウ、スズメバチ（女王バチ）、アシナガバチ（女王バチ）
ミツバチ

２．植物の冬越し

＜樹木＞

・冬芽（トウガ、フユメ）

冬芽の多くは寒さなどから芽を保護する芽鱗に被われています（鱗芽）が、被われていない芽（裸芽）もあります。また冬芽のそばに見られる葉痕（葉が落ちた痕）も見られます。

鱗芽　　コナラ、シラカシ、サンシュユ、ミズキ、ヤマボウシ、サクラ、ケヤキ

裸芽　　ムラサキシキブ、シナサワグルミ、アジサイ、クサギ

＜野草＞

・ロゼット

冬の間、風の影響をあまり受けず裏側は地面の温かさに守られており、表面は光を十分に受けられるので、春になってから種子から発芽しなければならない種類に比べずっと有利に成長できます。

タンポポ、オオバコ、ノアザミ、ギシギシ、ハルジオン、ヤブタビラコ

３．春の七草

セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ（コオニタビラコ）、スズナ、スズシロ

４．季節の歌　　『一月一日』　　作詞：千家尊福　作曲：上　真行

年の始めの例（ためし）とて
終わりなき世のめでたさを
松竹立てて門（かど）ごとに
祝う今日こそ楽しけれ

次回は２月９日（日）午後１時より「里山の春を探しに」です。
お待ちしております。